

福岡市ラグビーフットボール協会

【設立年】

1962 (昭37)年

【加盟年月日】

1962 (昭37)年

【歴代会長】

1990 (平2)年	三 苦	学
1993 (平5)年	田 村	稔 宏
2006 (平18)年	田 中	久 生
2007 (平19)年	魚 住	俊 治

【歴代理事長】

1991 (平3)年	江 頭	公 成
1993 (平5)年	田 中	久 生
1999 (平11)年	小 島	敏 雄
2007 (平19)年	松 尾	林
2009 (平21)年	藤 島	保 雄
2010 (平22)年	大 町	博 憲



【目 的】

福岡市ラグビーフットボール協会は、本市におけるラグビーフットボールの普及と振興を図るため、福岡県ラグビーフットボール協会の下部組織として平成2年に発足しました。

【理事及び会員】

現在、会長を含め14名の理事と45チームの会員により構成されています。

理事は、会長、副会長、理事長、書記長、会計、レフリー、総務からなり、また、会員は社会人チーム5、クラブチーム18、中学校12及び少年クラブチーム10が登録され、毎年、様々な試合の開催や応援等を行い、ラグビー技術の向上と選手の交流促進を図っているところです。



－ 会 員 － 平成23年5月10日現在

【社会人チーム】

- ・西部ガス
- ・福岡銀行
- ・福岡市役所
- ・西日本シティ銀行
- ・福岡市消防局

【クラブチーム】

- ・朝青クラブ
- ・生松RFC
- ・香椎クラブ
- ・玄海タンガロア
- ・どんたくクラブ
- ・福岡かぶと虫RFC
- ・福岡ファルコンズ
- ・迷惑クラブ
- ・放送クラブ
- ・あすなるクラブ
- ・S.R.C
- ・草ヶ江クラブ
- ・電通クラブ
- ・名島クラブ
- ・シザースクラブ
- ・マルヒRFC
- ・モンキーズクラブ
- ・隣友クラブ

【中学校チーム】

- ・自彊館中学校
- ・次郎丸中学校
- ・西南学院中学校
- ・百道中学校
- ・長尾中学校
- (・志摩中学校)
- (・輝翔館中等教育学校)
- (・明治学園中学校)
- ・城南中学校
- ・福岡舞鶴中学校
- ・長丘中学校
- ・原中学校

【少年クラブチーム】

- ・かしいヤングラガーズ
- ・片江ジュニアラガーズ
- ・ぎんなんリトルラガーズ
- ・草ヶ江ヤングラガーズ
- ・笹丘少年ラグビー
- ・城南スポーツラグビークラブ
- ・筑紫丘ラグビークラブジュニアスクール
- ・みやげヤングラガーズ
- (・玄海ジュニアラグビークラブ)
- (・引津リトルラガーズ)

【活動内容】

(1) 7人制ラグビー大会〈5月〉

2009（平成21）年までは「福岡シティセブン・ア・サイド」の大会名で開催されていた7人制のラグビー大会です。今年で19回目を迎え、約15チームが自慢の健脚と個人技を披露しています。

7人制ラグビーは、2016年夏季五輪の追加種目に決定しており、注目を集めている種目です。

(2) 小学生ちびっこラグビー大会〈6月〉

少年クラブチームに所属する幼稚園から小学4年生までの子供たち約300名が一同に集い、交流試合を開催しています。

熱心な保護者の声援に囲まれ、子供たちが日頃の練習の成果を発揮しています。



(3) 中学校新人大会〈1月〉

本市におけるラグビーの振興を図る上で、中学校にラグビーを普及させることは大変意義のあることであり、その一助として福岡市中学校ラグビー新人大会を開催しています。

近隣市町村の中学校も交え、各チーム優勝を目指し、グラウンド一杯駆け回っています。

(4) 中学生ジュニアラグビー大会〈3月〉

2008（平20）年から開催している少年のクラブチーム（中学生）が参加する12人制の交流大会です。

(5) 市民総合スポーツ大会

(ア) 社会人ラグビー大会〈2月〉

毎年1月から2月の間、本市にある社会人やクラブチームが参加して、トーナメント方式で試合を開催しています。

今年で46回目を迎えた大会で毎年20チーム程が参加しています。

(イ) 小学生ミニラグビー大会〈10月〉

少年のクラブチームに所属する小学6年生と5年生の子供たちが9人制のラグビーを通じ、集団生活の大切さやルールを学ぶ大会です。

(ウ) 中学生タッチフット大会〈10月〉

タッチフットとは、タックルの代わりに相手の身体にタッチして攻撃を止めるもので、スクラムもないパスゲームのようなものです。この大会には中学校チームが参加しています。



【今後の課題と展望】

2019年ラグビーワールドカップが日本で開催されることが決定しており、福岡市内にある球技場においても世界のトップレベルのラグビーが観られる可能性が高い。

今後は、子供たちへの普及のみならず老若男女全方位の競技者増加とスポーツ少年団など、地域に根付いた団体と連携を図り、地域活性化に繋がる拠点作りが重要である。